

AGU NEWS No. 23

青山学院大学

AGUニュース第23号
[2004年7月~9月号]
青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111(代表)
URL. <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



プロムナード(相模原キャンパス)

特集  AOYAMA
GAKUIN
UNIVERSITY

2003年度就職活動を振り返って

2004年4月就職 OB・OGへインタビュー

【就職活動について後輩へアドバイス!】

TOPICS

進化する青山学院大学の「大学院」
大学院法学研究科「ビジネス法務専攻」、来春開設に向けて準備進行中
ますます充実する青山学院大学の“寄附講座”

報告・お知らせ

「各国大使講演シリーズ」第2回
サー・スティープン・ゴマソール駐日英国大使講演
2004年度後期公開講座・公開講演会

誌上公開講座

フレッシュヤーズセミナー
「発展途上国のかかえる問題」

INFORMATION

夏期休業期間中の窓口案内
2005年度一般入学試験日程
2004年度進学相談会後期開催日程

2003年度は相変わらず厳しい就職状況でしたが、10年前から続いていた漸減傾向が2002年度に底を打って、どうやら2003年度からは改善の方向に向かいだしたような気が感じられます。業種による企業業績の差と、学生の関心の変化とを反映して、就職先業種も人文・社会科学系学部では金融保険業が減りサービス業が増え、理工学部では製造業が減り情報関係企業の割合が増えるという傾向がみられます。

就職と進学を含めた進路決定状況ですが、2003年度卒業生4,228名のうちで、進路決定者数(就職決定、自営、現職継続、大学院進学、留学)は2,937名で、進路決定率は卒業生全体の69.5%(昼間部72.0%、第二部(夜間部)55.9%)となりました。その中で、就職者(就職決定、自営、現職継続)は59.1%(昼間部60.9%、第二部(夜間部)49.3%)で、進学者(大学院進学、留学)は10.4%(昼間部11.1%、第二部(夜間部)6.6%)でした。

就職状況を端的に示す数値として就職希望者を基準にする指標では、2003年10月の「就職ガイダンス」の出席者数を母数にすると、昼間部の就職率は86.0%(2,168名/2,522名)となり、第二部(夜間部)は同様の基準で新規の就職率が50.2%(216名/430名)で、現職継続者も含めると76.5%(329名/430名)となります。



この中で、青山学院大学の場合は女性の就職率の高さが特徴としてあげられます。経済学部を除く全学部で男性よりも女性の方が就職率は高くなっており、女性の頑張りが目立ちます。これは一般的に女性の方の就職は難しいという意識から、就職活動に熱心に取り組み、現実的な就職先選択をした結果であろうと考えられます。

一方で、卒業時に進路を保留した人の中では、専門学校進学者が2.3%で各種試験準備者(公務員試験、教員採用試験、司法試験、公認会計士試験、税理士試験など)が6.0%で、進路保留者の中で、いわゆる無業者(臨時雇用と進路未定者の合計)は卒業生の約20%となっています。

就職部では、1、2年次から説明会や進路相談を行って進路選択について考え始めるように支援しています。また3、4年生に対しては、年間100回におよぶ就職支援活動を通して進路情報を提供すると同時に、一人ひとりの学生の個別事

情に合わせて対面的な進路相談を密に行っています(この件数は年々増加して2003年度で5,000件を越えました)。それでもかなりの数の学生が卒業時に進路を決めかねているのが現実ですから、これからの青山学院大学の進路支援活動は、卒業時で終わるのではなく、卒業後も進路選択のための助力ができるような、「暖かみのある、面倒見のよい就職支援活動」でありたいと考えています。

(就職部長 文学部教授 仁科 貞文 記)

2004年度就職関係行事日程

青山キャンパス(3年生を対象とした主な行事計画)		
行事	日程	内容
就職ガイダンス 「就職活動のスタートに備えて」	9/24(金)①②③ 9/29(水)③	①13:30~ ②18:00~ ③15:00~ ※於:青学講堂 3回とも同じ内容です。就職の手引、進路カード、行事予定表等配布。情報誌の申込。
適性検査	9/24(金)・10/2(土)	自己の適性を知り、進路を考える参考とする(費用一部負担)
就職活動ミニガイダンス①②③	10月初・中旬	〈就職ガイド〉自己分析、企業研究、履歴書、試験について等説明
就職セミナーI(講演会)	10月	〈職業観・自己分析〉自分らしい生き方を考えるきっかけとする
就職セミナーII(講演会)	10月	〈就職ガイド〉経済状況や情報収集の方法などを解説
テーマ別セミナー	9/25(土)~	マスコミ、外資系等各業界の仕事内容、採用動向などを解説
ビデオ映写	10月	職種の研究、マナーなど就職活動のビデオを映写
4年生活動報告会	12月	〈就職ガイド〉就職活動を終えた4年生によるパネルディスカッション
女子学生就職セミナー	10月	〈職業観・企業研究〉各業界で活躍するOGの現場からのメッセージ
模擬試験(SPI・一般常識)	10月、11月、12月、2月	採用試験で多く取り入れられているSPI試験、一般常識テストを体験(実費)
自己分析・エントリーシート対策講座	10月、12月、2月	〈自己分析・試験対策〉エントリーシートの書き方を講義し、実際に書いたシートを添削(実費)
学内企業セミナー	11月、12月、2月予定	〈業界・企業研究〉各業界の採用担当者を招き、学内で実施する企業説明会
相模原キャンパス(理工学部3年生・理工学研究科1年生を対象とした主な行事計画)		
行事	日程	内容
第1回就職ガイダンス	9月末~10月に予定	就職活動に備える最初の行事、「就職の手引」「進路カード」配布。
就職適性検査	詳細については、学生情報サービス、掲示板参照	自己の適性を知り、進路・就職先を考える助けとする。
各種模擬テスト		採用試験で実際に行われている一般常識、SPI等の模擬試験。

1・2年生を対象とした職業・興味適性テスト、公務員ガイダンス等を青山・相模原両キャンパスで開催いたします。
※追加、変更等もありますので、就職部・進路グループの掲示板で必ず確認してください。
※ホームページ(<http://www.aoyama.ac.jp>)に就職関連情報を掲載します。

就職者数ランキングベスト20

人文・社会科学系			
順位	企業名	2003年度	2002年度
1	東京都小学校	25	11
2	三井住友銀行	13	11
3	東京三菱銀行	12	23
4	損害保険ジャパン	11	12
4	第一生命保険	11	7
4	Eイチ・アイ・エス	11	5
7	三菱信託銀行	10	3
7	スタッフサービス	10	2
7	ユーエフジェイ銀行	10	10
7	横浜銀行	10	3
7	大和証券	10	6
12	警視庁	9	8
12	日本生命保険	9	17
12	三井住友海上火災保険	9	16
15	ジャルスカイサービス	8	9
15	日立製作所	8	4
15	大塚商会	8	5
15	日本興亜損害保険	8	8
19	みずほ銀行	7	29
19	NTTデータ	7	3
19	三陽商会	7	1

理工工学系			
順位	企業名	2003年度	2002年度
1	キャノン	14	17
2	日本電気	8	8
3	本田技研工業	6	7
3	TIS	6	6
5	日産自動車	5	6
5	日立情報システムズ	5	6
7	NTTデータ	4	6
7	キャノン販売	4	5
7	エヌ・ティ・ティ・コムウェア	4	5
7	日本トータル・システム	4	5
7	日本システムディベロップメント	4	5
7	メイテック	4	4
13	富士通	3	4
13	日本ヒューレット・パッカード	3	4
13	東日本電信電話	3	4
13	日立システムアンドサービス	3	4
13	オリンパス	3	4
13	野村総合研究所	3	4
13	日立製作所	3	4
13	大和総研	3	4

理工学研究科生を含む

就職活動支援システムを活用しよう



一般の就職情報サイトにはない、本学独自の就職情報を提供するシステムで、学生は学内や自宅のパソコンから企業の求人セミナー開催情報、また本学卒業生に関する情報などが閲覧可能です。さらに、就職希望や内定の報告を行ったり、「就職の手引」のPDFファイルをダウンロードすることもできます。

就職活動支援システムは、有名企業の採用活動が一段落した後も、多くの「求人情報」「セミナー情報」を提供しています。企業の2次募集や追加募集では、大学を限定して告知する場合がありますので、ぜひ本システムを活用し、貴重なチャンスを生かしてください。

●就職活動支援システム・利用メニュー

【就職の手引】3年次の第1回就職ガイダンスに配布する「手引」のPDFファイルです。

【企業検索】企業条件(名称、業種、所在地等)と求人条件(対象年度、募集学部・学科、職種等)から、企業を検索できます。

【セミナー検索】会社説明会やセミナーの開催情報を検索できます。

【入社実績検索】過去5年間にわたる本学卒業生の各企業への入社実績とOB・OG名簿を検索できます。

【就職希望入力】希望業種・職種を登録できます。

【内定入力】内定後の進路先報告を直接入力・送信できます。

【試験報告入力】入社試験報告を直接入力・送信できます。

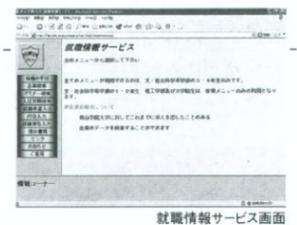
【提出書類】進路決定届や入社試験報告書などの報告用紙をダウンロードできます。

【リンク】各就職情報関連サイトへのリンク集です。

【お知らせ】「採用中止企業情報」「行事予定」などの速報を掲示します。

【ご意見】就職情報サービスに対するご意見を受け付けています。

※なお、大学院生、理工学部生および人文・社会科学系学部1・2年生は、「就職の手引」「検索メニュー」「リンク」のみ利用することができます。



就職情報サービス画面

都市銀行勤務

**熱意を持って、
自分の魅力を企業に
アピールしてください**

2004年3月
法学部法学科卒業
安藤 大毅 さん

就職活動でもっとも大切なのは、自分にベストな会社、業種を探す熱意だと思います。何事も熱意がないとがんばることはできませんし、相手にこちらの気持ちも伝わらないと思います。私が銀行に決めた理由は第一に「人」です。自分と気持ちが通じ合う方が多かったですし、自分のことを本当に欲しがっているという誠意も強く感じました。第二には、自分の成長につながるということです。銀行は取引先業種も多様なので、入行後に勉強しなくてはならない。この環境は今まで苦労知らず(?)の自分にはいい環境なのでは、と考えました。実際、金融商品が多様化している現在、行員にはかなりの知識量が問われており、自分の成長、お客様の喜ぶ顔を想像しながら日夜勉強に励んでいます。

就職活動では、大学の就職部にたいへんお世話になりました。特に学内セミナーは素晴らしかったです。さまざまな業界のリーディングカンパニーの方が来学されるのが魅力で、学生が参加しやすい水曜日や土曜日に学内セミナーがあるという点もありがたかったです。後輩のみなさんも、決して妥協せず、自分の“売り”を積極的に全面に押し出して後悔のない就職活動をしてください。がんばれ青学生!

進路を意識しはじめた頃、趣味の写真撮影を仕事にしたいと考えようになりました。しかし、専門的に写真を勉強していない自分がいきなり写真家を目指すのは難しく、理系の忙しさから専門学校等で学ぶ余裕もありません……それでも写真に関わるためにはどのような手段があるか考え、カメラの開発という仕事にたどり着きました。現在は研修中ですが、研修後はデジタル一眼レフカメラの部品開発に関わる予定です。

「理工学部的女子学生は就職が厳しい」と聞いていましたが、私は女性であることを特に意識する必要はないと思います。こちらが思うほど、企業は女性だから……とは考えていないようです。特に、大手企業であるほどそうでした。逆に、女性であるということも個性のひとつと考え、その利点を生かすことが大事ではないかと思えます。

就職活動、そして社会人になるための心構えに関して大切なのは、まず目的を持つことです。充実した就職活動や社会人生活のためにも、「何のために仕事をするか」「こういう仕事がしたい」「こういう自分でありたい」といった具体的な夢やイメージを持つようにすると思います。また、企業を選ぶときに、最初から無理と決めないことも大切です。可能性を自ら狭めず、入社したい企業があるならぜひチャレンジしてみることをお勧めします。私の経験ですと、不思議と「どうしても入りたい」と思った企業では入社試験もうまくいきました。

光学機器メーカー勤務

**しっかりした
目的があれば、
夢はきっとかないます**

2004年3月
理工学部物理学科卒業
山内 楨子 さん

食品メーカー勤務

**就職部の方々には
たいへんお世話に
なりました**

2004年3月
文学部英米文学科卒業
越 由希子 さん

就職活動は人それぞれです。誰もが手探り状態のなか、つい他人の行動が気になり、人の意見に流されがちです。でも、そんな時こそ立ち止まって、自分の本当に行きたい道を再確認すべきではないでしょうか。私の場合、一時は教員になりたいと考え、教職課程を履修していましたがその後、大学のセミナーに参加しているうち、自分の知らないビジネス社会への関心が芽生え、企業へと志望を変えました。しかし、教職で学んだことが決して回り道だと思いません。むしろ、勉学に対するモチベーションの高い仲間とともに学んだこと、そして教育実習を経験したことで人間的な成長を図ることができ、そのおかげで志望した食品メーカーの内定を獲得できたと思っています。ただ私の場合、就職活動と教育実習の準備を同時進行でやらなくてはならなかったため、その両立にはとても苦労しました。そんな不安な時期に親身になって相談に乗ってくださったのが就職部のスタッフ。もし、後輩のみなさんも就職に関する悩みがあったら、すぐに就職部を訪れてみることをお勧めします。

ところで入社後、私が配属されたのは、なんと人事部採用担当。昨年までは採用される側だったのに……なんだか変な気分です。今、学生に一番近い立場の社会人として何ができるのかを考えながら、後輩のみなさんとの出会いを楽しみにしています。

2004年度大学院在籍学生数

博士前期課程・修士課程・専門職学位課程 2004.5.1現在			
研究科・専攻	学内進学者数	在籍学生数	
文学	教育学※	—	23
	心理学※	1	18
	英米文学※	—	36
	フランス文学・語学	—	7
	日本文学・日本語	—	12
	史学	—	37
経済学	小計	1	133
	経済学	3	20
法学	私法	1	16
	公法	1	17
経営学	小計	2	33
	経営学※	10	46
理工学	物理学	—	39
	化学	—	27
	機械工学	—	38
	電気電子工学	—	38
	経営工学	—	27
	理工学	158	201
	小計	158	370
	国際政治経済学	—	—
国際政治経済学	国際政治学※	5	46
	国際経済学※	3	26
	国際ビジネス※	—	4
	国際コミュニケーション※	1	64
	小計	9	140
国際マネジメント★	国際マネジメント※	9	196
法務★	法務	—	60
合計	192	998	

学内進学者数は学内進学者選抜試験による2004年4月入学者数。
 在籍学生数には、博士後期課程の人数を含みません。
 ※印の専攻は昼夜開講制。
 ★印の研究科は専門職大学院。

2003年度教員採用試験報告

数多くの教員を社会に輩出し、社会から高い評価を得ている本学。
 今年度は45人の「教師の卵」が全国の学校現場に巣立っていきました。

2003年度教員免許取得および2004年度教員採用状況 2004.5.1現在

	免許状取得件数				採用者数				合計			
	幼稚園		第二部(夜間部)		公立学校		私立学校					
	1種	2種	1種	2種	1種	2種	1種	2種				
幼稚園	24	0	13	0	1	0	3	1	4	1	5	
小学校	61	2	20	2	21	6	0	0	21	6	27	
養、ろう学校					0	0	0	0	0	0	0	
中学校	英語	61	6	6	0	5	0	0	0	5	0	5
	フランス語	9	0			0	0	0	0	0	0	0
	国語	26	0	3	0	0	0	2	0	2	0	2
	社会	29	0	7	0	0	0	1	0	1	0	1
	理科	19				0	0	1	0	1	0	1
	数学	2				0	0	0	0	0	0	0
高等学校	英語	81		7		0	0	2	0	2	0	2
	フランス語	10				0	0	0	0	0	0	0
	国語	45		5		1	0	0	0	1	0	1
	地理歴史	35		8		1	0	0	0	1	0	1
	公民	23		9		0	0	0	0	0	0	0
	理科	23				0	0	0	0	0	0	0
	数学	2				0	0	0	0	0	0	0
	商業	3		2		0	0	0	0	0	0	0
	工業	1				0	0	0	0	0	0	0
計	275		47		29	6	9	1	38	7	45	

※免許状取得件数の計は人数計。(大学院生および科目等履修生は除く)
 採用者数は2004年5月1日現在届け出のあった者のみ(非常勤および臨時講師は除く)。

経営学部学生チーム「Umbre.ad」が 相模原市ビジネスプランコンテストに入賞

3月12日(金)、相模原キャンパスで行われた「平成15年度さがみはら青年アントレプレナー ビジネスプランコンテスト」(相模原市主催)において、経営学部4年生のチーム「Umbre.ad」が、プラン名「VRI広告」によりチャレンジ賞と特別賞を受賞しました。

「Umbre.ad」は、経営学部山下勝ゼミナールの中澤央君、國富葉子さん、清水まりさん、芦川亜佑美さんの4名で構成され、もともとベンチャー企業に関する共同研究に取り組んでいたメンバーが中心になっています。入賞した「VRI広告」とは、「ネット広告の効果は薄いという課題を克服するために、バーチャル(V)と消費者のリアル(R)な行動を連動させ、インパクト(I)を与えることで広告効果をあげよう」という新しい広告のあり方の提案で、発案者はリーダーを務める中澤君。メンバー全員に受賞の喜びと勝因を語ってもらいました。



「プロセスが苦しかっただけに、喜びもひとしおです。勝因は行動力でしょう。プロの企画者や専門家の意見を取り入れながら、プランをブラッシュアップしていきました」(中澤君)

「自分たちのプランが2つの賞として評価されたことがうれしいです。学生らしい大胆な発想と当日のユニークなパフォーマンスが、審査員の方々の心をつかんだでしょう」(國富さん)

「できることはやった!という達成感を感じています。勝因ではありませんが、メンバー同士の助け合いが私たちのチームの良かったところだと思っています」(清水さん)

「中澤君の「大きなことをやりたい。自分のしたことを残したい」という想いに共感して参加しました。勝因はそんなリーダーの熱い想いと他のメンバーが自分の役割をしっかりと果たしたことはないでしょうか」(芦川さん)

大学院理工学研究科 神山智英さんが 「平成15年度電子情報通信学会」 学術奨励賞を受賞

3月23日(火)、神山智英さん(理工学研究科電気電子工学専攻博士前期課程修了/橋本修研究室)が電子情報通信学会より学術奨励賞を授与されました。受賞論文は「LCタップ統合型λ/4共振器を用いたBPFの減衰極の位置制御」。ワイヤレス通信機器に不可欠なデバイスである高周波フィルタの特性改善に一石を投じる研究として、世界的に注目されています。神山さんに受賞の感想と今後の抱負をうかがいました。

「たいへん名誉な受賞でとても光栄です。歴代の受賞者を見てみると、そうそうたるメンバー……自分も受賞者としての名に恥じないよう、今後、好奇心と探求心を持っていっそう研究に精進していくつもりです。また、橋本教授、和田助手をはじめとする研究室のみなさんのサポートがなければ、おそらく受賞できなかったでしょう。今後はフィルタだけでなく、高周波デバイス全般についての研究に取り組んでいきたいですね。」

進化する青山学院大学の「大学院」



学長
武藤 元昭

武藤元昭学長に、本学における「大学院の現状とこれから」をテーマにお話を伺いました。

—私学で3つの専門職大学院を擁するのは、わが国ではきわめて珍しいことです。青山学院大学がこうした先進的な試みを実現することができた要因は、どこにあるとお考えですか？

武藤 やはり、本学に優れた「人材」がそろっていたことが挙げられると思います。こうした新しい試みに対しては、ともすれば制度やシステムばかりが議論されがちですが、やはりもっとも重要なのは、そこで働く「人」であると私は思います。本学各学部には、卓越した研究者であり、優れた教育者でもある多数の教員スタッフがそろっています。また、専門職大学院の場合は、実務経験者の教員など外部の方々を招聘していますが、みなさん「青山学院なら、喜んで協力しましょう」と言ってください。本学には、こうした優秀な人々が、それぞれの実力を十分に発揮できる校風、いわば“働きやすい環境”があるのではないかと私は自負しています。もちろん、その校風は一朝一夕にできたものではなく、長い伝統の中で培われたものであることは言うまでもありません。

—今後、既存の大学院各研究科のあり方も変わってくるのでしょうか。

武藤 専門職大学院の登場によって、研究者育成型の従来の大学院は、今、大きな岐路に立たされています。そのため、理論研究と実務教育のバランスを考慮しながら、どのような棲み分けをしていくかが、現在の大きな課題です。2005年度からスタートする予定の法学研究科「ビジネス法務専攻」は、その課題に対するひとつの解答となりますが、今後さらにこうした新しい

試みにチャレンジしていくことが求められてくるでしょう。また、大学院における研究成果を、学外に向けて積極的かつわかりやすく発信していくことも重要です。ここ数年、理工学研究科が次々にめざましい研究成果を発表し、社会からも注目を浴びましたが、実は本学の人文系、社会科学系の研究科でも、若手研究者たちがきわめてレベルの高い研究を行っています。そうした本学大学院の実力を、もっと社会に対してしっかりとアピールしていくことも考えなければなりません。

—社会のニーズに対応しつつ、社会へのフィードバックも積極的にやっていくわけですね。

武藤 ただし、大学・大学院本来の社会的役割を考えると、決して時代や社会に振り回されてはいけません。私は、今こそ「青山学院大学が理想とする教育・研究とはどのようなものなのか？」という点を全学で考えていくべきだと思っています。法科大学院の場合、新司法試験の合格者を多く出すことが重要ですが、私はそれだけではだめだと思っています。司法試験合格という“結果”だけでなく、もっと長いスパンで評価すべきこともあるのではないのでしょうか。すなわち「青山学院大学だからこそ生み出せる法曹の養成」——この理想を忘れてはいけません。実際、法科大学院に関わる先生方は、倫理観や人間性、国際性など、独自のコンセプトを打ち出したカリキュラムと教育方法を工夫されています。今後、大学院の発展・充実を考えていく上で、このように本学の揺るぎないスタンスを、教育と研究の両面で示していくことが、大切だと思っています。現在、青山キャンパス3号館隣に地上7階・地下1階の「会計専門職大学院棟」（仮称）の建築が着々と進められていますが3つの専門職大学院の連携など、大学全体としてまだまだ課題はたくさんあります。時代の流れを追うのではなく、われわれが新しい時代を創るという意気込みで、大学院教育の充実に取り組んでいきたいと考えています。

ますます充実する“寄附講座”



学務・学生担当副学長
仙波 憲一

企業・団体などの寄附によって運営される、“寄附講座（あるいは委託講座）”は、教育を行う場（施設・設備）を大学が提供し、教員やカリキュラムのコンテンツなどを外部に委託する授業で、ともすれば理論面に偏重しがちな大学教育に、社会の現状を踏まえた実践面での教育を補完する役割を果たしています。

これまでも本学は学部単位で、3～4年生を対象とした企業・団体の寄附講座を開講してきましたが、2004年度からは2年生を対象とした青山ス

タンドラ科目として「国際ビジネス入門」と「感性ビジネス」を相模原キャンパスで開講。いずれも学生たちから好評を博しています。

寄附講座は、一言で言えば、キャンパスの外に広がる“社会”を教室の中に持ち込むという試みです。社会の風を寄附講座という“窓”からキャンパスに入れることにより、学生たちがこれまで以上に社会に目を向け、そうした社会への能動的な関心を、各自の将来のキャリア形成にまでつなげていくことが、私たちの願いです。

刻々と変化する現代社会には、定まった“シラバス”などというものはありません。そのため社会の第一線で活躍された方々の体験とノウハウこそが、最高のテキストになります。もちろん、大学の授業ですから、単なる講師の経験談では終わらせず、それぞれの経験の根底にある普遍的な考え方・見方を、各講師がオリジナルな手法で提示していただけるよう、授業の中身とスタイルが工夫されています。

今後も、青山スタンダード科目として本学独自の外部講師を招いた講座を積極的に提案していきたいと考えています。たとえば、古典芸能分野などで活躍する卒業生の方々のご協力を得ながら日本の伝統文化への造詣を深める講座、本学のキリスト教主義の伝統を踏まえ、世界のさまざまな宗教についてオムニバス形式で学べる講座……などを構想・企画して、多種多様な授業形態で幅広い学生のニーズに応えていきたいと考えています。同時に寄附講座が、学内の教員にも大きな刺激となり、大学全体の教育面における活性化につながることも期待しています。また、社会の方々には、大学という場がどのようなものであるかを知っていただくためのかけがえのない機会でもあり、ここから新しい産学連携の流れを創り出していきたいと考えています。

青山スタンダード科目「寄附講座」

●特定非営利活動法人 国際社会貢献センターによる「国際ビジネス入門」

豊富な海外ビジネス経験を有する元商社マンの方々を講師に迎え、現場で培った国際ビジネスに関する生きた知識を伝えていただく講義です。前期は、日本経済・世界経済の流れを概説した上で、各国経済事情をテーマに講義を展開。北米、中南米、東南アジア、中国、ヨーロッパ、中東、インドにおける政治・経済、文化などに対する理解を深めます。後期は産業別の「国際ビジネスモデル」とODA（政府開発援助）やNPO・NGOなどによる国際協力の実状も考察。最後にWTOやFTAなどの国際共通ルールを紹介し、グローバル化が進む国際ビジネスの将来の課題についてわかりやすく解説します。

大学院法学研究科「ビジネス法務専攻」、来春開設に向けて準備進行中

大学院法学研究科では、既存の私法専攻・公法専攻に加えて2005年4月より「ビジネス法務専攻」の開設を予定しています。そこで「大学院法学研究科改革プロジェクトチーム」の代表重田晴生法学部教授、実務担当の藤川久昭法学部助教授からお話をうかがいました。



重田晴生教授

●大学院法学研究科改革への取り組み

法学研究科の改革は、大学院教育のあり方が問い直されている時代の流れを受け、すでに1997年からスタートしています。途中、法科大学院開設に力を注ぎながらも、地道に改革への取り組みを続けてきましたが、2005年4月、いよいよ抜本的な改革の柱として「ビジネス法務専攻」(修士課程・博士後期課程)を開設する準備が本格化。この新専攻は「社会人」が「夜間」を利用して「ビジネスローリテラシー」を学ぶという新しい考え方に基づいた大学院教育を行うもので、学部教育を含めた一連のAOYAMA LAW改革の総仕上げといえるものです。また、既存の私法専攻・公法専攻においても、2005年度より積極的に社会人を受け入れるとともに、新専攻との連携と差別化を踏まえた教育プログラムの見直しを行います。

●「ビジネス法務専攻」設置の意義

近年、企業の社会的責任、内部告発問題などに関連するコンプライアンスなど、ビジネス分野でリーガルの観点がかますます重要になってきています。ところが、わが国にはビジネスとリーガルの両立を図るような大学院教育プログラムが十分に整備されず、そうした問題に取り組むことができる人材育成も行われていませんでした。「ビジネス法務専攻」は、他大学に先駆けてリーガルの理論研究とビジネス実務の架け橋となる「ビジネスローリテラシー」を標榜。大学院としての新しい「ビジネスモデル」を社会に提案します。

●最新のビジネス動向を見すえた開設準備

新専攻開設にあたっては、2つの民間シンクタンクと協力し、勉強会やマーケ

ットリサーチを重ね、ビジネス動向や社会人の教育ニーズを探ったうえで、カリキュラム・コンテンツ開発を行っています。スタッフは、ビジネス実務に造詣が深い法学部教員をコーディネーターとして、ビジネスとリーガルの双方に精通した弁護士、税理士、コンサルタント等の実務家が参加します。また、新専攻の設置と同時に、院生のキャリアアップや就職のサポート、実践教育機会の提供など、大学院とビジネス社会との連携拠点となる「ビジネスローセンター(仮称)」の設置も検討しています。

●「ビジネス法務専攻」の教育・研究システム

新専攻のカリキュラムには、実際のビジネス社会で求められる専門能力に即した「人事労務法務」「知財法務」「税法務」という3つの“プログラム”を設定する予定です。同時に各プログラムの枠にとらわれず、実際のビジネス社会で特定の問題について学際的にアプローチする「イシュー・コンテンツ科目」も用意。短期集中型のセミナー形式で受講できるシステムも計画しており、社会人にとっての大学院での新しい学び方を提示する本学独自の教育研究システムの構築を進めています。また、海外セミナー等の積極的展開によって、国際的な視野でビジネスロー研究に取り組める教育環境づくりも推進。博士後期課程においては、ビジネスロー分野での博士号取得を目指す社会人・留学生を積極的に受け入れていきたいと考えています。

なお、「ビジネス法務専攻」開設当初は、青山キャンパスのみでの開講となりますが、将来的には相模原キャンパスでの開講、さらにe-learningについても今後検討していきます。



藤川久昭助教授

法学部入学定員増を申請

2005年度入試より法学部法学科の入学定員を40名増員する予定です。なお、法学部では2005年度より大学入試センター試験利用入試を実施します(12P参照)。

●財団法人 ファッション産業人材育成機構による「感性ビジネス」

狭義のファッション・ビジネスは、素材産業、アパレル産業、流通産業、その他関連産業から構成され、さらに感性産業や生活関連産業などを含める場合もあります。本講義では、代表的な感性ビジネスであるファッション産業界でリーダー・第一人者として活躍中の講師の方々が、毎回、各分野での“ファッション・ビジネスの今”を講義。“提案する”“創る”“売る”“伝える”……それぞれのビジネスモデルや戦略を知ることによって、新しいライフスタイルを提案・創造するファッション・ビジネスへの理解を深めることを目指します。

文学部では、2003年度朝日新聞社・寄附講座「メディア実践論」にひきつづき、2004年度より新たに株式会社電通による寄附講座をスタートさせました。

●朝日新聞社による「メディア実践論」

マスメディアの今日的意味と課題について学び、メディアリテラシーを養う講座。紙面からだけでは窺いきれない報道現場の生きた事象を、経験豊富な現役・OBジャーナリストが具体例を挙げて連続講義を行います。

●株式会社電通による「広告コミュニケーション文化論」

受講者のコミュニケーション表現能力の開発と向上を目指す講座。広告は、商品やサービスのアピールによる販売促進、また企業イメージの向上という経済的活動としての側面とともに、その時代のライフスタイルや考え方を先取りし、人々に提案するという社会的、文化的表現行為としての側面もあわせ持つ現代生活に欠かせないコミュニケーション手段です。本講義では、広告コミュニケーションの社会的、文化的表現行為の側面について、現場で活躍されている講師陣を迎え、それぞれの経験と実践的知識に関する講義を展開します。



国際マネジメント研究科・寄附講座

国際マネジメント研究科では、2004年度より新たに下記の3つの寄附講座をスタートさせました。

●ニッセイ信用保証株式会社による「企業戦略とリスク・マネジメント」(エグゼクティブMBA)

構造的環境変化が進展する「不確実性リスク」の中で企業戦略を展開する日本企業。この不確実性の中で、有効な意思決定を行い、企業価値を創造、向上させていくことが企業間競争を生き残り、発展を目指すために不可欠です。本講義では「リスク」を伝統的リスク理論に加え、「不確実性リスク」と「事業機会リスク」の概念で把握。その上でリスクマネジメントを、コンプライアンス、ビジネスリスクマネジメント、総合的リスクマネジメントの観点から検討していきます。

●株式会社新生銀行による「資金調達政策」(エグゼクティブMBA)

本講義は、企業財務や金融分野に接する機会が少ない方を対象に、将来、経営幹部としてビジネスやプロジェクトの意思決定に必須となるコーポレートファイナンス(企業金融)、特に資金調達のあり方や手法についての基礎知識の習得を目的とします。ケーススタディによる受講生の討論・発表等、講義への積極的な参加によって「経営戦略と資金調達政策のあり方」の大局観を把握。また、メディアでも取り上げられる資金調達に関する最新トピックスや事例紹介も行います。

●株式会社東芝による「国際マネジメント特別講座(安全保障輸出管理)」

今日、グローバル企業にとって安全保障輸出管理は重要な責務になっています。こうした背景において、国際的な安全保障輸出管理に大きな影響を与える米国の外交・経済政策、安全保障の考え方、安全保障の脅威の対象の構図、およびそれらの根拠にある各国の意図を分析する能力を身につけることが重要になっていきます。本講義では、こうした分析力を身につけるとともに、外為法や米輸出管理法等の基本を習得。グローバル企業で活躍できる企業人を育成します。

●相模原市と地域産業の活性化を目指す協定を締結

4月22日(木)、相模原市役所において、神奈川県相模原市と青山学院大学が「地域産業活性化に関する協定」を締結。今後は、相模原市と本学の間で「地域企業が抱える技術や経営手法等に係る諸問題の解決」「地域企業との連携による新製品・新技術の開発」などにおいて、さまざまな協力体制を図っていく予定です。



写真提供:相模原市役所

●清里サマー・カレッジ

静かな大自然の中にある山梨県清里・八ヶ岳岳で、学生と教員が生活を共にしながら、聖書や讃美歌に親しみ、年齢や学部・学科にとらわれずに参加者同士が語り合える機会です。2004年度は8月1日(日)～8月3日(火)、「人は何のために生きるのか」という主題のもとに開かれます。特別講師に日本キリスト教団梅ヶ丘教会牧師の塩谷直也先生をお招きします。生きることについて、一緒にじっくりと考えてみませんか。お問い合わせ先:青山学院宗教センター TEL 03-3409-6537

●ワルシャワ工科大学と学術交流協定を締結

4月23日(金)、青山キャンパスにおいて、本学とワルシャワ工科大学(ポーランド)との間で学術交流協定の調印式が行われました。また、22日(木)には相模原キャンパスにおいて、ポーランド大使館で行われている「POLISH SCIENCE FORUM」の一環として、本学とワルシャワ工科大学との合同セミナーが開催されました。



●相模原祭のお知らせ

2003年度、記念すべき相模原キャンパス開学後初めての相模原祭が大盛況のうちに終了しました。2004年度もさらなる相模原祭の発展を目指して、既に昨年度の実行委員を中心に学生の皆さんが準備に取りかかっています。相模原祭は、人文・社会学系学部の1・2年生および理工学部の学生が中心となり、展示会、演奏会、各種模擬店などの催し物の他、理工学部の研究室による研究発表等の特色のある催し物も予定されており、地域住民の方々との交流を深める機会としても有意義な祭典となることでしょう。今年の開催日は、10月9日(土)・10日(日)の2日間です。ご期待ください。

●対東北学院大学総合定期戦報告

5月29日(土)から31日(月)までの3日間、第55回対東北学院大学総合定期戦が青山学院大学において開催されました。今回は相模原キャンパス開学を記念して、開会式を相模原キャンパスウェスレーチャペルにて挙行。戦績は7勝7敗1引き分けとなり、東北学院大学の遠征勝ちという結果に終わり、通算成績が本学の35勝20敗となりました。



●第11回大学同窓祭開催のお知らせ

9月23日(木・祝)午前10:00～、青山キャンパスにおいて、あの日に会える、第11回大学同窓祭を開催します。開会礼拝・開会式、ムッシュかまやつ氏コンサート、越川禮子氏の「いきで素敵な「江戸しぐさ」」、横浜・中田市長をコーディネーターとするフォーラム2004「いま、地方の時代を考える」(本学出身の下田市市長、大和市市長、見附市長、高知市長が参加)、公開講座、オークション、青山寄席、法律税務等無料相談、クラブ参加催事、懇親パーティー等が行われます。ふるってご参加を。詳細は同窓祭ホームページ <http://aogaku-doso.net> をご覧ください。お問い合わせ先:大学同窓祭実行委員会事務局TEL 03-3409-8990

●課外教育プログラム

◆新生歓迎オリエンテーリング

5月8日(土)、相模原キャンパスにおいて、課外教育プログラム「新生歓迎オリエンテーリング」が開催されました。今回は在学生の運営スタッフによる企画で行事の運営を行いました。新入生が相模原キャンパス内外のチェックポイントを巡り、クイズに挑戦。続いてN棟教職員食堂で行われたレセプションでは、くつろいだ雰囲気の中で、新入生とスタッフの在学生が交流し、友好を深めました。参加した新入生からは、「相模原キャンパス近くの神社に行ったりして楽しかった。」「知らない新入生と話ができて良かった。」など好評でした。

◆陶芸教室

6月6日(日)、新宿アートスクールにおいて、課外教育プログラム「陶芸教室」が開催されました。この企画は学年や国籍、学部・学科、キャンパスを越えた友人が出来ることにより、今後の学生生活を有意義に送ってもらうことを目的としています。当日は、49名(内留学生3名)の参加者が、午前、午後の2グループに分かれ、湯呑み茶碗やご飯茶碗など、思い思いの創作意欲を100%発揮した作品作りをし、時間が足らなくなる位に熱中していました。さて、作品の出来はいかがだったでしょう。1ヵ月後の作品の出来上りを楽しみにしながら、好評のうちに解散しました。

お問い合わせ先:青山キャンパス 学生部/相模原キャンパス 学生生活グループ

●女子バレーボール部が14年ぶりに関東大会優勝

5月9日(日)、本学相模原キャンパスA棟(アリーナ)において「春季関東大学リーグ戦」が開催され、本学女子バレーボール部は6勝1敗の成績で、見事優勝の快挙を成し遂げました。この大会における本学の優勝は、実に28季(14年)ぶり2度目となります。



写真提供:青山学院大学新聞

●女子サッカー日本代表上田栄治監督(本学OB)、アテネへ!

アテネ五輪への出場を決めた女子サッカー日本代表。その監督を務めるのが、本学OB(1976年法学部卒)の上田栄治氏です。在学中はサッカー部に所属し、その後、フジタのFWとして活躍。Jリーグ発足後は、ベルマーレ平塚の強化担当、監督として、中田英寿選手をはじめ数多くの日本代表選手を育成。1999年にはマカオ代表監督も務めるなど指導者としての手腕には定評があります。8月の五輪における上田監督、そして女子サッカー日本代表チームの活躍に、ぜひご注目ください。

「各国大使講演シリーズ」第2回 サー・スティーブン・ゴマソール駐日英国大使講演

青山学院大学の一層の国際化・国際交流を進める一環として昨年から始まった「各国大使講演シリーズ」。第2回目は、5月25日(火)、サー・スティーブン・ゴマソール駐日英国大使を招いて総研ビル12階大会議室で開かれました。「欧米間のパートナーシップ構築とイギリスの戦略的優先課題」と題した講演は、相模原キャンパスにも同時中継され、双方で約180名の聴衆に大きな感銘を与えました。



ゴマソール大使は、今日の国際社会が直面している脅威は、かつてのソ連の脅威のようなものではなく、テロやWMD(大量破壊兵器)の拡散、あるいは麻薬などのグローバルな問題であると指摘し、日本の人道支援、技術協力、環境問題への取り組み、経済開発、そして平和維持の面などでの役割について述べ、たとえば、東ティモールや現在のイラクでの自衛隊を含む日本の活動は、たとえ軍事力を行使しなくとも、これらの地域の平和と安全に大きく貢献していると高く評価しました。また、5月から加盟国が25か国となった拡大EUについては、EUが発言力を増すことにはなっても、それがひとつの政府になるとは思われなく、との現実的な見方を示しました。その他、WTO、イラクや国連外交などについても包括的に論じられ、イギリス外交が国際社会を運営するうえで中心的存在になっているとの説明がありました。

講演の後、学生や教員から、英国外交のアイデンティティ、日本の国連常任理事国入り、自衛隊と外国軍との協力の形などたくさん質問が出されたことに対し、ひとつひとつ丁寧に回答が述べられ、終了予定時間を大幅にオーバーしました。聴衆を唸らせたのは、大使の外交・国際問題についての深い知識だけでなく、その率直かつ誠実な姿勢と、完璧な日本語でした。

今回の講演は、7月に帰国される多忙な大使のスケジュールの合い間を縫って行われました。また、英国大使館、共催のジャパン・タイムズ、小倉和夫本学特別招聘教授(国際交流基金理事長)の支援によって開催できたことに感謝したいと思います。次回は11月頃に駐日中国大使の講演を予定しています。今後とも学生の皆さんの積極的な参加を期待します。

(土山實男国際政治経済学部長記)
(当日、司会)



2004年度後期 公開講座・公開講演会

●青山キャンパス開講(14:30~16:00)

〈渋谷区・青山学院大学共催公開講座〉先端科学技術と生命倫理
9/25(土) 先端生命科学の現在—その技術と規制の動向—

ジャーナリスト 粥川 準二

10/2(土) ヒトとは何か—法哲学の立場から—

法学部教授 住吉 雅美

10/9(土) 親とは何か—民法の立場から—

大学院法務研究科教授 許 末恵

10/16(土) 人権との関わり—国際人権法の立場から—

法学部助教授 申 惠手

10/23(土) 総論—先端科学技術と生命倫理をどう考えるか—

大学院法務研究科教授 新倉 修

会場: 青山学院大学青山キャンパス 11号館2階 1123教室

申込期間: 8/23(月)~30(月) 往復はがきにて期間内消印有効

〈青山学院大学〉親と子の心理

11/13(土) お母さん お父さん わかって—子どもの願い—

大阪大学名誉教授 三木 善彦

11/20(土) 親と子の葛藤から—学生相談をとおして—

学生相談センター専任カウンセラー 葛生 聡

11/27(土) 親子関係の形成—血のつながりのない親子の場合—

文学部教授 庄司 順一

12/4(土) 親と子の心理—子どもと親のつなぎ手としての立場から—

文学部助教授 小俣 和義

12/11(土) 親の心 子の心—子どもの心が見えますか—

法学部教授 石井 光

会場: 青山学院大学青山キャンパス 11号館2階 1123教室

申込期間: 10/6(水)~13(水) 往復はがきにて期間内消印有効

●相模原キャンパス開講(14:30~16:00)

〈青山学院大学〉エネルギー効率化と環境問題

11/20(土) 電波の利用と環境問題

—ノイズ対策における電波吸収技術の役割—

理工学部教授 橋本 修

11/27(土) 新しい太陽電池のはなし

—いかに効率を上げるか?—

理工学部助教授 中田 時夫

12/4(土) エネルギー・デモクラシー

法学部教授 平松 敏

12/11(土) 科学技術と安全性

—科学技術と安全性の問題を経済する—

東洋大学 経済学部教授 鈴木 利治

12/18(土) 超伝導とエネルギー効率化

—超伝導とは何だろう、又どのように役立つか—

理工学部教授 秋光 純

会場: 青山学院大学相模原キャンパス E棟 E103教室

申込期間: 10/20(水)~27(水) 往復はがきにて期間内消印有効

〈公開講演会〉

物質科学への招待 9/12(日) 広島市 ホテルグランヴィア広島

第一部: 高性能セラミックス薄膜材料が切り開く未来

—情報技術や環境技術分野を支える最先端の薄膜技術—

理工学部教授 重里 有三

第二部: 超伝導の夢を追って—研究と人生—

理工学部教授 秋光 純

親と子の心理 10/17(日) 神戸市 神戸ポートピアホテル

第一部: 親と子の心理—子どもの心の問題と対応—

文学部助教授 小俣 和義

第二部: 親子関係の形成—血のつながりのない親子の場合—

文学部教授 庄司 順一

親と子の心理 11/7(日) 福岡市 福岡県中小企業振興センター

第一部: 親と子の葛藤から—学生相談をとおして—

学生相談センター専任カウンセラー 葛生 聡

第二部: 親の心 子の心—子どもの心が見えますか—

法学部教授 石井 光

いずれも開催時間、申込方法等、詳細については現在調整中です。

詳細については、下記にご連絡いただくか、本学公開講座ウェブサイトをご覧ください。

お問い合わせ先: 〒150-8366 (郵便番号のみで届きます)

青山学院大学 庶務部庶務課企画運営係 公開講座担当

TEL 03-3409-7955

http://www.aoyama.ac.jp/extension/index.html

Club & Circle Information

お問い合わせ先 〒150-8366
青山学院大学学生部学生課 TEL 03-3409-7835

*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。下記大会演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

主要活動予定(2004年8月~10月)

- 吹奏楽・バトントワリング部 全日本吹奏楽コンクール(10月)
- オラトリオ・ソサエティ合唱団 第40回定期演奏会(10月)
- 舞踊研究会 秋東都大学学生競技ダンス選手権大会(10月)
- アメリカンフットボール部 関東大学アメリカンフットボールリーグ戦(9~11月)
- 空手道部 関東学生空手道選手権大会(10月) 剣道部 全日本学生剣道優勝大会(10月)
- 硬式庭球部 全日本学生テニス選手権大会(8月) 硬式野球部 東都大学野球秋季リーグ戦(9~10月)
- サッカー部 関東大学サッカーリーグ戦(9~10月) 柔道部 全日本学生柔道体重別選手権大会(10月)
- ソフトテニス部 東都大学秋季リーグ戦(9月) 卓球部 全日本学生卓球選手権(10月)
- チアリーディング部 JAPAN CUP 日本選手権大会(9月)
- バスケットボール部 関東大学バスケットボールリーグ戦(9~10月)
- バドミントン部 全日本学生選手権大会(10月) バレーボール部 関東大学バレーボールリーグ戦(9~10月)
- ラグビー部 関東大学対抗戦(9~12月) 陸上競技部 箱根駅伝予選会(10月)

主要活動報告(2004年5月~7月)

- バレーボール部(女子) 関東大学リーグ戦優勝 ソフトテニス部(女子) 東都大学春季リーグ戦第三位
- ソフトテニス部(女子) 関東学生春季リーグ戦第三位
- 吹奏楽・バトントワリング部 東京都吹奏楽連盟第30回アンサンブルコンテスト打楽器四重奏金賞



加藤 篤史
経営学部助教授

フレッシューズセミナー 「発展途上国のかかえる問題」

入学したばかりの1年生を対象に、さまざまな学部の学生で構成された少人数クラス(約20名)で行われるフレッシューズセミナー。文理融合型の相模原キャンパスで学ぶ醍醐味を実感できる画期的な科目です。今回は、その一例として経営学部・加藤篤史助教授に紹介していただきました。

●重いテーマを明るく議論しよう

私が担当するフレッシューズセミナーのクラスのテーマは、「発展途上国のかかえる問題」です。学期前半に開発経済学の本を読んで、経済発展に関する基礎的な知識を学生につけてもらいます。参加している学生はさまざまな学部から来ているのですが、発展途上国の直面する最も重



大な問題が経済的な貧しさであるため、まず経済学的な観点から、問題の根幹を理解してもらえるように、開発経済学の本をテキストとして選びました。担当者がレジュメを作り、順番に発表し、お互いに質問しながら、議論をしていきます。専門的に開発途上

国の問題を勉強したことがなくても、優秀な青学生たちは発表者に対して鋭い質問をして、深みのある議論をすることができます。たとえば、政府開発援助の箇所を発表した学生に対して、他の学生が「日本から援助をしても、それが貧しい人の手に渡っていないのではないか?」という質問が出たり、人口問題の箇所の発表者に対して、「経済発展が進むとどうして人口増加率が低下するのか?」という本質的な問題提起がなされたりして、楽しく中身の濃い議論を繰り広げています。



発展途上国の貧困の問題は、確かに重いテーマです。しかし、クラスではこうした問題を重く暗くならず話し合っていきたいと考えています。また、議論する内容も経済問題に限らず、社会、政治、国際関係、文化、教育、家族、医療、人口など幅広くカバーしていきます。

●学生と私の実体験も授業に活かす

今年度のクラスには、高校時代にバングラデシュやタイを訪れた学生が2名いました。そこで、学期の真ん中あたりに彼らに自分たちの体験を、自ら撮影した写真を交えて発表してもらう時間を作りました。たとえば6月第1週の授業では、高校時代にバングラデシュ・ダッカへボランティア活動で訪れた経済学部の渡辺ほこさんが発表を行いました。現地で出会ったストリートチルドレンや物乞いの姿などから、「理不尽な貧富の差」に対するやりきれなさという気持ちを感じたという彼女の話し、他の学生たちは深く聞き入っていました。

また、私自身の途上国でのさまざまな体験も語っています。特に、インドに行くことが多いので、インドでは貧困ゆえに道に物乞いする人やホームレスが多いとか、小さな子どもが家族を手伝って働いている様子など、豊かな日本の若者たちがなかなか実感できない途上国の貧しさの実体を紹介していきたいと思っています。そのほか、学期のはじめには、学生みなさんに途上国のイメージを持ってもらうために、私が大学時代にタイのカレン族の村やフィリピンのスラム街で、ホームステイした時の写真も紹介しました。また、最近行ったペルーやタンザニアやインドでの写真も見せるなど、体験の持つ迫力と説得力を授業でフルに活かしていきたいと思っています。

●自分のテーマをみつけよう

学期の後半では、学生を3名か4名のグループに分け、それぞれのグループごとに選んだテーマ



に関して調べてきてもらい、クラスでグループ発表をしてもらいます。今年度は、6つのグループがそれぞれ経済発展と環境問題、政治体制、人口問題、人々の幸福、所得分配、教育の関わりを調べてくる予定です。



またこのクラスでは、「発展途上国の直面する問題と解決のための方策」というテーマで、学生一人ひとりもともと関心がある問題を1つ選び、選んだ問題についての解説、およびその問題を解決

するために行われるべき方策について、自分の考えを述べる短いレポート(A4サイズ3~5枚程度)を課しています。

フレッシューズセミナーの学生たちは、まだ大学に入学したばかりで緊張感を持っており、みんな一生懸命、授業の準備をしてくるので、クラス全体のやる気を感じられ、教員である私も毎回、楽しみにしています。そしてこうした学生たちのやる気を行動に結びつけようと、学生が参加できる途上国での体験旅行の情報、あるいは国際交流のイベントの情報などもクラスで提供するようにしています。クラスの学生たちが、今後も発展途上国の問題に関心を持ち続けてくれれば、これ以上の喜びはありません。

夏期休業期間中の窓口案内

対象期間 8/2(月)～9/25(土)
一斉休業期間 8/2(月)～8/7(土)

※詳細は各キャンパスの掲示板をご覧ください。

部 署	窓口事務取扱期間	曜 日	取 扱 時 間	備 考
庶 務 部	8/9～9/13	月～金	9:00～16:00	9/14(火)より平常通り
	8/9～9/13	月～金	9:00～19:00(11:30～12:30は除く)	
教 務 課	9/14～9/25	月～金 土	9:00～19:00(11:30～12:30は除く) 9:00～19:00(11:30～14:00は除く)	9/27(月)より平常通り
	8/9～9/13	月～金	9:00～15:30	
教 職 課 程 課	8/9～9/13	月～金	9:00～19:00(11:30～12:30は除く)	9/14(火)より平常通り
	8/9～9/13	月～金	9:00～19:00(11:30～12:30は除く)	
学 生 部	9/14～9/25	月～金 土	9:00～19:00(11:30～16:00は除く)	9/27(月)より平常通り
	8/9～9/13	月～金	9:00～11:30, 12:30～15:30	
就 職 部 事 務 室	9/14～9/25	月～土	9:00～11:30, 12:30～16:00	土曜のみ9:00～12:00
	8/9～9/13	月～金	9:00～16:00	
就 職 部 資 料 室	9/14～9/25	月～土	9:00～17:00	土曜のみ9:00～13:00
	8/9～9/13	月～土	9:00～19:00(土曜のみ13:00～19:00)	
図 書 館	8/9～9/13	月～土	9:00～19:00(土曜のみ13:00～19:00)	9/14(火)より平常通り 休館中の本の返却は図書館正面のブックポストに入れてください
専 門 職 大 学 院 事 務 室	8/9～9/13	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/14(火)より平常通り
大 学 院 事 務 室	8/9～9/13	月～金	9:00～15:30(11:30～12:30は除く)	
広 報 入 試 セ ン タ ー	8/9～9/13	月～金	9:00～16:00	9/14(火)より平常通り
総 合 研 究 所 事 務 室	8/9～9/13	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	
情 報 科 学 研 究 セ ン タ ー	8/9～9/13	月～金	9:00～19:00	9/27(月)より平常通り
	9/14～9/25	月～土	9:00～19:00	
国 際 交 流 セ ン タ ー	8/9～9/13	月～金	9:00～15:30(11:30～12:30は除く)	9/14(火)より平常通り
	8/9～9/13	火・金	9:00～19:00	
外 国 語 ラ ボ ラ ト リ ー	9/14～9/24	月～金	9:00～19:00	9/27(月)より平常通り
	8/9～9/13	月～金	9:00～16:00	
学 生 相 談 セ ン タ ー	9/14～9/25	月～土	9:00～17:00(土曜のみ11:30まで)	9/27(月)より平常通り
	8/9～9/13	月～金	9:00～15:30	
保 健 管 理 セ ン タ ー	*8/18～8/25	月～金	9:00～15:30, 17:30～20:00	9/27(月)より平常通り 11:30～12:30は除く
	9/14～9/25	月～土	9:00～16:00(土曜のみ11:30まで)	
	8/9～9/10	月～金	9:00～16:00	
宗 教 セ ン タ ー	9/11～9/25	月～土	9:00～17:00(土曜のみ13:00まで)	9/27(月)より平常通り
	8/9～9/13	月～金	9:00～16:00	

ユ ニ ッ ト	グ ル ー プ	窓 口 事 務 取 扱 期 間	曜 日	取 扱 時 間	備 考
学 生 支 援 ユ ニ ッ ト	ス チ ュ ー デ ン ト セ ン タ ー	8/9～9/13	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/14(火)より平常通り
	学 務 グ ル ー プ	8/9～9/13	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/14(火)より平常通り
	進 路 グ ル ー プ	8/9～9/13	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/14(火)より平常通り
	国 際 交 流 グ ル ー プ	8/9～9/13	火・金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/14(火)より平常通り
	学 生 生 活 グ ル ー プ	8/9～9/13	火・金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/14(火)より平常通り
教 育 ・ 学 習 支 援 ユ ニ ッ ト	健 康 管 理 グ ル ー プ (保 健 管 理 セ ン タ ー 事 務 室)	8/9～9/13	火・金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/14(火)より平常通り
	健 康 管 理 グ ル ー プ (学 生 相 談 セ ン タ ー 事 務 室)	8/9～9/13	火・金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/14(火)より平常通り
	情 報 科 学 支 援 グ ル ー プ (情 報 科 学 研 究 セ ン タ ー)	8/9～9/13 9/14～9/25	月～金 月～土	9:00～16:00 9:00～17:00(土曜のみ13:00まで)	9/27(月)より平常通り
	図 書 グ ル ー プ (図 書 館)	8/9～9/13 9/14～9/25	月～金 月～土	9:00～16:00(土曜のみ13:00まで) 9:00～17:00(土曜のみ13:00まで)	9/27(月)より平常通り
研 究 支 援 ユ ニ ッ ト	メ デ ィ ア ラ イ ブ ラ リ ー グ ル ー プ	8/9～9/13	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/14(火)より平常通り
	研 究 支 援 グ ル ー プ	8/9～9/13	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/14(火)より平常通り
企 画 ・ 渉 外 ・ 庶 務 ユ ニ ッ ト	企 画 グ ル ー プ	8/9～9/13	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/14(火)より平常通り
	地 域 渉 外 交 流 グ ル ー プ	8/9～9/13	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/14(火)より平常通り
経 理 ・ 施 設 ユ ニ ッ ト	庶 務 グ ル ー プ	8/9～9/13	月～金	9:00～16:00	9/27(月)より平常通り
	経 理 ・ 施 設 グ ル ー プ	8/9～9/13 9/14～9/25	月～金 月～土	9:00～16:00 9:00～17:00(土曜のみ13:00まで)	

前期終了科目 成績通知について

9月中旬以降、各キャンパス内設置の学内情報端末および学生証リーダー付PCにて各自で成績通知書を出力してください。なお、前期終了科目のみの保証人宛成績通知は行っていません。来年3月中旬に当該年度末までの成績を含め郵送します。ただし、卒業決定者については学位授与式当日、学生本人に配付の予定です。

大学学費納付について (大学院の学費納付については、大学院要覧を参照してください)

1. 学費振込依頼書発送時期

- 後期振込依頼書発送予定日9月7日(火)【納入期限10月1日(金)】
- 学費振込依頼書は、上記の日程で保証人宛(第二部のみ申し出のあった場合は学生宛)に送付致します。
- 学費振込依頼書に記載の銀行本・支店での振込みは、振込手数料は無料です。
その他の都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合、農業組合等での振込みは、振込手数料が必要になります。

※注意 自動振込機による振込は絶対にしないようご注意ください。
(学費納入の確認が不可能のため)

2. 下記事項問い合わせ先 (学費未納等事故防止のため)

- 住所変更(保証人・本人)→学生部厚生課(青山キャンパス)
学生生活グループ(相模原キャンパス)
- 休学・退学希望者 →昼間部(3・4年)および第二部は学務部
教務課(青山キャンパス)
昼間部(1・2年、理工学部全学年)は
学務グループ(相模原キャンパス)
- 学費振込依頼書紛失→経理部出納課
- 転部・編入学・転学部・転学科・再入学の学生の学費は、経理部出納課にお問い合わせください。

3. 納入期限の延納を希望する場合は、納入期限までに各キャンパスの学生部または学生生活グループへ願い出てください。
無断で学費を滞納すると除籍になる場合もありますので注意してください。

【青山キャンパス 03-3409-8111(代表)】
【相模原キャンパス 042-759-6000(代表)】

2004年度後期学費一覧表(入学年度別)

単位:円

学 部	年 度			
	2004年度入学生 後 期	2003年度入学生 後 期	2002年度入学生 後 期	2001年度入学生 後 期
文 学 部				
経 済 学 部				
法 学 部	375,000	375,000	375,000	375,000
経 営 学 部				
国際政治経済学部				
理 工 学 部	540,500	540,500	540,500	540,500
文 学 部 第 二 部				
経 済 学 部 第 二 部	238,500	235,500	235,500	235,500
経 営 学 部 第 二 部				

・上記以外に、教育職員免許状取得の希望を申請した者は教職課程料として14,000円、各種資格取得を希望する者は、資格課程料(司書教諭6,000円、司書4,000円、社会教育主事4,000円、学芸員4,000円)が後期学費に加算されます。(在学中1回徴収)

・上記学費一覧表は、転部・編入学・転学部・転学科・再入学・留年等は除きます。
経理部出納課 03-3409-6479(直通)

2005年度入学試験日程

●一般入学試験

学部・学科・コース・方式	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
理工学部 物理・数理学科 化学・生命科学科 機械創造工学科 情報テクノロジー学科 電気電子工学科 経営システム工学科	1/6(木)～1/28(金) 郵送受付に限り (締切日消印有効)	2/10(木)	2/17(木)	2/24(木)
文学部 教育学科(B方式) 英米文学科(A方式) フランス文学科 日本文学科(B方式) 史学科 心理学科(歴史学専攻) 教育学科(A方式) 英米文学科(B方式) 日本文学科(A方式) 心理学科(心理学専攻)		2/11(金)	2/20(日)	2/28(月)
経営学部 経営学科	1/6(木)～1/31(月) 郵送受付に限り (締切日消印有効)	2/15(火)	2/21(月)	2/28(月)
法学部 法学科		2/17(木)	2/23(水)	3/2(水)
国際政治 国際政治学科 経済学部 国際経済学科		2/18(金)	2/24(木)	3/3(木)
経済学部 経済学科		2/19(土)	2/25(金)	3/4(金)
文学部 第二部 教育学科 英米文学科	郵送受付期間(締切日消印有効)			
経済学部 第二部 経済学科	1/6(木)～2/15(火) 窓口受付日(青山キャンパス)	2/26(土)	3/3(木)	3/10(木)
経営学部 第二部 経営学科	2/19(土)のみ			

●大学入試センター試験利用入学試験 各学部・学科とも、個別学力検査等は設けません。

学部・学科	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
法学部 法学科 国際政治 国際政治学科 経済学部 国際経済学科	1/6(木)～1/14(金) 郵送受付に限り (締切日消印有効)	1/15(土)	2/8(火)	2/16(水)
理工学部 物理・数理学科 化学・生命科学科 電気電子工学科 機械創造工学科 経営システム工学科 情報テクノロジー学科		1/16(日) [平成17年度大学入試センター試験受験案内を参照。]		

※入学手続締切日までに、入学金を除く学費等についての延納(入学申込手続)を許可された者の入学完了手続締切日は3月24日(木)です(正規合格者のみ対象)。

2004年度進学相談会後期開催日程

9/17(金) 高崎 高崎サンパレス 9/21(火) 水戸 水戸プラザホテル	8/7(土) 大阪 マイドームおおさか 8/28(火) 大阪 大塚ホール
8/1(日) 横浜 パシフィック横浜 9/4(土) 横浜 横浜新都市ビル(横浜そごう) 9/11(土) 新宿 新宿NSビル 9/16(土) 渋谷 渋谷エクセルホテル東急	9/4(土) 広島 基町クレド 9/8(日) 広島 広島グリーンアリーナ 9/15(水) 下関 海城メッセ下関
2005年 3/19(土) 横浜 横浜新都市ビル(横浜そごう) 3/26(土) 有楽町 東京国際フォーラム	9/7(火) 高知 高知新設島ホテル 9/8(水) 徳島 ホテルクレメント徳島 9/15(水) 松山 松山愛媛県民文化会館 9/16(木) 高松 高松市総合体育館
9/6(月) 甲府 ベルクラシック甲府 9/7(火) 松本 ホテルブエナビスタ 9/8(水) 長野 ホテルポロポリタン長野 9/9(木) 長岡 ホテルニューオータニ長岡 9/10(金) 新潟 ホテル新潟	9/14(火) 福岡 ソラリア西鉄ホテル 9/17(金) 大分 トキハ会館 9/27(月) 長崎 長崎プリンスホテル 9/28(火) 佐賀 マリトピア 9/30(木) 熊本 ホテル日航熊本 10/4(月) 宮崎 MRT micc 10/5(火) 鹿児島 鹿児島アリーナ
9/13(月) 金沢 金沢金日空ホテル 9/14(火) 富山 富山金日空ホテル 9/15(水) 福井 フェニックスプラザ	
9/4(土) 静岡 ツインメッセ静岡	

※開催日、会場等は変更になる場合がありますので、広報入試センター広報課にお問い合わせください。
※進学相談会の全日程を本学ホームページ(入試・入学案内)にも掲載しています。

News Index

2004.04～06 WEEKLY AOYAMAのタイトル紹介

2003年4月下旬～6月中旬までの主なタイトルを掲載しています。

04年4月

- 大学院理工学研究科生 池田 陽介さんが「電気学会東京支部電気学術奨励賞」を受賞
- 青山学院大学 WTO研究センター主催 国際学術講演会のお知らせ

04年5月

- 平田オリヰ氏による公開講演会のお知らせ
- 理工学部機械創造工学科 竹本幹男教授が「日本材料試験技術協会賞」受賞
- 第1回学生のための「EUトップ企業戦略セミナー」のお知らせ
- 青山学院大学WTO研究センター主催公開シンポジウム「日本×キシコFTA交渉とアジア諸国FTA」のお知らせ

04年6月

- 法科大学院説明会のお知らせ
- 滋賀清子氏による一人芝居(学生向け公開授業)のお知らせ
- 「おーる あおやま あーと てん04」のお知らせ
- 相模原キャンパスサイン計画が「公共の色彩賞」を受賞
- 第2回学生のための「EUトップ企業戦略セミナー」のお知らせ
- 青山スタンダード「キリスト教理解関連科目」特別コンサートのお知らせ



相模原キャンパスサイン計画が「公共の色彩賞」を受賞

歴代院長とその時代



とよだ みのる
豊田 實
第9代院長(1946～1955年在任)

戦後の1946(昭和21)年に豊田實第9代院長が就任し、青山学院は、専門学校、女子専門学校、中学部、高等女学部、初等部の陣容で再出発します。豊田院長は青山学院高等科、神学科出身。在学中に受洗し、東京帝国大学で英語・英文学を専攻。1929(昭和4)年に文学博士の学位を取得し、戦時中は九州帝国大学教授の任にありました。院長就任後、学制改革による組織改編や戦災により失った教育施設の復興計画に取り組み、学院の再建に尽力。1949(昭和24)年には専門学校を改編した「青山学院大学」の設置が当時の文部省



大学開校後の正門

から認可され、文学部、商学部、工学部(横須賀分校)の3学部体制で開学しました。明治末以来、学院の悲願であった大学設置が、ここによく実現したのです。豊田院長は1952(昭和27)年まで大学学長を兼任するとともに、わが国の英語・英文学界で指導的な役割を果たしました。また、1949(昭和24)年には、豊田院長の発案によって、現在の女子短期大学校舎付近に17世紀イギリス・ルネッサンス風の整形式庭園「シェイクスピア・ガーデン」が造られています。

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々に送付しています。あわせて、本学ホームページには「AGU News on Web」を開設。「AGUニュース」の内容を抜粋して掲載するとともに、大学のタイムリーなニュー

スを簡潔な文字情報で週ごとにお知らせする「Weekly AOYAMA」ページも設けてあります。さらに「Weekly AOYAMA」につきましては、2週分のニュースの中から主要な記事を抜粋し、在学生を対象に「AGUニュースレター」として学内のAGUニュース専用スタンドにて配布しています。なお、「Weekly AOYAMA」は、8月より大学が夏期休業期間となるため、しばらくの間更新を休止いたします。9月下旬より再スタートいたしますので予めご了承ください。

※保証人の方は、お手数ながら本誌を学生へ回付していただきますようお願いいたします。

AGUニュースのバックナンバーはこちらでご覧ください。

<http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>
広報入試センター広報課 ● 2004年7月12日発行 ●